

県民の皆さまへ

県民の皆さまには、平素から赤十字事業の推進に深いご理解と温かいご支援を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、日本赤十字社三重県支部は、明治22(1889)年の創立から、「人間のいのちと健康、尊厳を守ること」を使命として、多くの県民の皆さまに支えられ赤十字活動を継続してまいりました。これもひとえに、県民の皆さまや法人の皆さま並びに地区・分区をはじめとする関係者の皆さまの深いご理解と温かいご支援によるもので、改めて感謝申し上げます。

日本赤十字社は、「災害からいのちを守る赤十字」として、被災者に寄り添った救護活動に取り組めるよう日頃から訓練や研修に努めています。平時には県内幼稚園・保育園の子どもたちから自治会の方々まで幅広い年代層の方々へ「防災セミナー」「救急法等講習会」「防災出前授業」などを実施するほか、令和6年1月1日に発生しました能登半島地震災害では、発災直後から医療救護班を派遣し、被災者の支援活動を行いました。発災直後だけではなく、復興まで被災者に寄り添うところのケアや、義援金の受付など、息の長い支援を続けているところです。

令和6年度には日本赤十字社三重県支部社屋を移転し、より質の高い被災者支援活動が実施できるよう、災害救護支援センターの役割・機能を備えた施設として運用を開始する予定です。

また、災害救護以外にも、日本赤十字社では国際活動、青少年赤十字事業、赤十字ボランティア活動、講習会事業、医療事業、血液事業など「苦しんでいる人を救う」ための活動を幅広く展開しています。

これらの活動は、ひとえに赤十字の趣旨に賛同くださる個人や法人の皆さまからお寄せいただくご支援により支えられています。本年度におきましても、赤十字運動の理念と活動の普及に向け、何卒活動資金への一層のお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

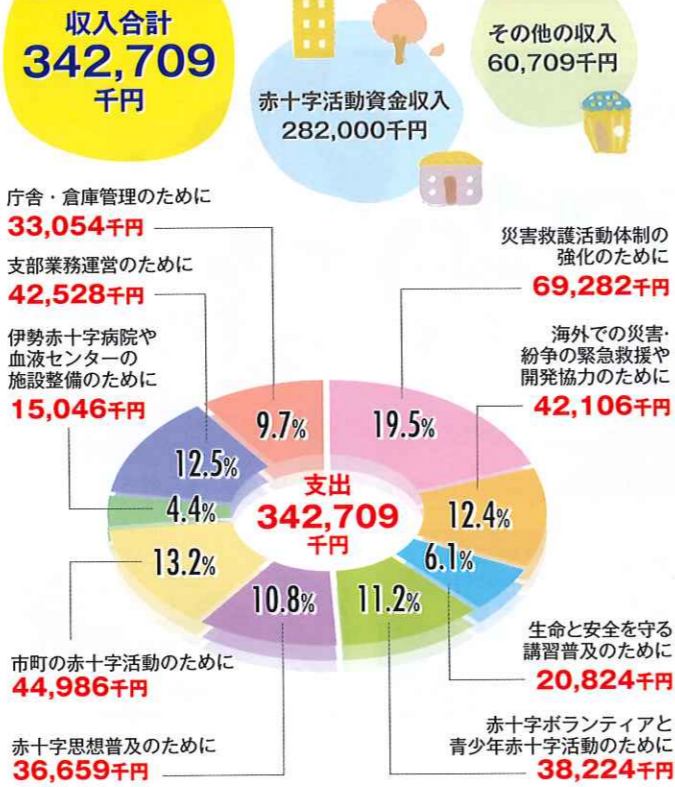


日本赤十字社三重県支部 支部長 一見 勝之

皆さまからのご支援の使い道



令和6年度事業計画(予算)



●赤十字病院および血液センターは施設ごとの特別会計となっているためこの予算には含めておりません。
●災害時における受援体制の整備などを含めた災害機能強化のための社屋移転整備費用353,271千円については、施設整備準備金積立金等より充当するため含めておりません。

三重県の新しい赤十字活動拠点を建設中です!

三重県支部と三重県赤十字血液センターは、災害救護体制の充実・強化や血液事業の災害時における事業継続という喫緊の課題に対応するため、津市あつ台に移転をします。

この新しい拠点が県民の皆さまの期待に応え、防災セミナーや救急法等の各種講習会の実施、青少年赤十字加盟校の

社会見学等、防災・減災について学べる施設とし、県民の皆さまから利用してもらえる施設となるよう各種取り組みを進めてまいります。



最新の情報は特設サイトで公開中 詳しくはコチラをご覧ください。



日本赤十字社 三重県支部社屋・災害救護支援センター (竣工 令和6年度中)



三重県赤十字血液センター (令和6年4月22日から新施設で業務を開始)



日本赤十字社 三重県支部

〒514-0004 津市栄町1丁目891番地 TEL 059-227-4145 FAX 059-227-6245
<https://www.jrc.or.jp/chapter/mie/>

伊勢赤十字病院	〒516-8512 伊勢市船江1丁目471番2	TEL.0596-28-2171(代表)
三重県赤十字血液センター	〒514-0003 津市桜橋2丁目191番地 (4月22日以降 〒514-0131 三重県津市あつ台4丁目8番5)	TEL.(0120) 05-5632
四日市献血ルーム「サンセリテ」	〒510-0075 四日市市安島1-3-31 近鉄四日市駅前「トナリエ四日市」5階	TEL.(0120) 39-5863
伊勢献血ルーム「ハートワン」	〒516-0008 伊勢市船江1丁目471-1 ミタス伊勢内	TEL.(0120) 25-7821

赤十字は、動いている!

あなたと想いをひとつにして。

災害、紛争、貧困や感染症...
 多くの人を苦しめる人道危機は、世界中でますます深刻化しています。
 幸せな生活を理不尽に奪われ、傷つき苦しんでいる人々を救いたい。
 あなたのその想いを担って、赤十字は今日も明日も活動を続けます。
 いかなる状況下でも、人のいのちと健康と尊厳は、守られなければならない。
 365日とぎれることのない救護と支援は、あなたと赤十字のアクションです。



TEAM SAVE365 一緒なら、救える。
 日本赤十字社の活動は、皆様の寄付によって支えられています。



皆さまからのご支援により赤十字活動は支えられています。

令和6年 能登半島地震災害への対応

日本赤十字社は1月1日の地震発災直後から、救護活動を行っています。発災翌日の1月2日から災害医療コーディネートチーム、および救護班(DMATを含む)を現地に順次派遣し、被災者の手当てや診察などの救護活動を実施。避難所や医療支援が届きにくい孤立した集落や施設へ向けは、巡回診療も行っています。

また、多くの赤十字ボランティアの協力により、毛布や安眠セット、簡易トイレなどの救援物資を配布する活動を実施しました。

義援金の受付も行っております。お寄せいただきました義援金は、被災地の方々の生活を支援するため、被災都道府県が設置する義援金配分委員会へ全額をお送りします。

活動拠点である病院で関係機関と連携する救護班



救援物資を運ぶ赤十字ボランティアと職員



巡回診療中、医療資器材の準備



早朝の救急外来で被災者の傷を縫合する医師



打ち合わせをする救護班



道路に乗り上げた船



活動拠点で会議を行う日赤職員



街頭募金を行う赤十字ボランティア

国内災害救護

近年、国内における自然災害は、頻発化・激甚化・広域化しています。日本赤十字社は、災害に備え、訓練、物資の整備などを行うほか、防災・減災意識の普及・啓発に努めています。災害時にはいち早く救護班などを派遣し、救護活動を行います。



災害に備えて…

赤十字防災セミナーを開催しています!

赤十字防災セミナーは、東日本大震災等過去の災害の教訓を踏まえ、あなたの街で災害が発生したときに予想される被害や救助活動、避難生活などの課題を具体的にイメージしながら、いのちを守るさまざまな方法を地域に密着した形で学ぶことができます。

自治会・町内会をはじめとした地域の団体等を対象に実施していますので、ぜひ積極的な開催をご検討ください。

防災セミナーメニュー

災害への備え

地震・津波・風水害に対する平時の備え

災害エスノグラフィー

被災した人々のインタビュー記事で災害の追体験

災害図上訓練(DIG)

地域の防災マップ作成を通じて、危険箇所の把握や地域で予め行うべきことを検討

赤十字講習会

さまざまな講習会を開催し、多くの人に救命・健康・安全意識に関する知識・技術を普及しています。



ビニール袋を使った応急手当



赤十字事業紹介

国際活動

世界中の災害や紛争、病気などに苦しむ人々を救うため、世界最大の赤十字のネットワーク(191の国と地域が参加)を活かして、緊急時の救援や復興支援、予防活動に取り組んでいます。



青少年赤十字

児童・生徒が赤十字の精神に基づき、「健康・安全」「奉仕」「国際理解・親善」を目標に掲げ、さまざまな活動を学校教育の中で展開しています。



医療事業

県内では伊勢赤十字病院において地域医療を支えています。災害時には災害拠点病院として、患者の受け入れ、救護班の派遣を行います。



赤十字ボランティア

三重県内では約2,000人のボランティアが、世代や分野を超えて連携し、地域課題の解決に向けて活動しています。



血液事業

献血ルーム(四日市・伊勢・津)、献血バスで献血の受付を行うとともに、県内医療機関へ血液製剤の安定供給を行っています。



看護師育成

日本赤十字豊田看護大学において、人道を実現し、災害救護活動や国際救護活動などに従事できる看護師を育成しています。



社会福祉事業

社会的な支援を必要とする人の生活支援を行うとともに、皆が支え合える地域社会を目指します。



1年に1度、一世帯当たり
500円を目安とした
ご支援をお願いしています。

日本赤十字社の活動は、国や県の補助金で運営しているのではなく、地域の皆さまからの活動資金(寄付)を主たる財源としています。近年における自然災害の頻発化や激甚化、広域化などにより、赤十字の災害救護活動の必要性が増加している一方で、人口減少等により活動資金が減少しています。今後、「人間のいのちと健康、尊厳を守る」という赤十字の使命に基づき、活動を継続していくために、赤十字活動資金へのご協力をお願いします。

任意のご協力

町内会・自治会等を通じたご協力に加え、様々な方法で赤十字活動資金にご協力をいただくことができます。

クレジットカード

Webサイトからの登録により、クレジットカードでご寄付いただけます。ご寄付の方法は、毎年・毎月・今回のみの3種類からお選びいただけます。



その他協力方法

- 口座振替
- 郵便振替・銀行振込
- 遺産・相続財産